

財団法人東北活性化研究センター  
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成23年7月東北分  
(新潟を含む東北7県)」について

財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成23年7月東北分(新潟を含む東北7県)」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

【基調判断】

●今月の基調判断…東北地域の景気は

「東日本大震災の影響はあるものの、復興関連を中心に持ち直しの動きが続いている」  
(上方修正)

- ・東日本大震災の影響や放射性物質による風評被害及び汚染の問題が尾を引いているものの復興需要が続いており、季節商材を中心に高額品でも一部に動きがみられるほか、企業の生産・受注や雇用環境においても回復・改善の傾向がみられる。一方、先行きは放射性物質による風評被害及び汚染の問題や電力不足、円高等の懸念材料があるものの、引き続き復興需要が見込まれるほか、季節商材の需要や企業の生産・受注及び雇用環境の回復・改善が期待されている。このことから、総合的には東日本大震災の影響はあるものの、復興関連を中心に持ち直しの動きが続いていると判断される。

【調査結果のポイント】

(1) キーワード

- ・プラスのキーワード  
…復興需要（現状、先行き）、天候（現状）、夏物・クールビズ（現状）
- ・マイナスのキーワード  
…買い控え・節約志向（現状、先行き）、原発事故・放射性物質の汚染（先行き）

(2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「59.5」（+6.7）は、4か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で上回った。
- ・家計動向は、節約志向や農畜産物の放射性物質汚染の影響がみられるものの、自粛ムードは和らいできており、復興需要が続いている。また、暑さや節電に対応したクールビズ関連をはじめとする夏物衣料や飲料等の季節商材に動きがあり、ブランド品等の高額品も一部で動きがみられる。DIは「59.6」（+7.3）と4か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で上回った。
- ・企業動向は、復旧・復興需要に伴う建設関連等に加え、住宅部材や広告等でも生産・受注の面で回復の動きがみられるものの、東日本大震災の影響や放射性物質による風評被害

害及び汚染の問題が尾を引いているほか、一部の製造業で円高の影響が出始めている。DIは「57.5」(▲2.4)と4か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を2か月連続で上回った。

- ・雇用動向は、建設・土木、住宅、配送、倉庫内整理、警備業など復旧・復興関連の求人が引き続き活発なことに加え、一部の企業で採用意欲に回復の兆しがみられる。DIは「63.1」(+20.2)と3か月連続で前月を上回り、大幅に改善した。また、景気判断の基準となる50を5か月ぶりに上回った。

### (3) 先行き判断(3か月先の見通し、方向性)

- ・先行き判断DI「51.0」(+1.8)は、4か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を15か月ぶりに上回った。
- ・家計動向は、東日本大震災の影響は縮小傾向にあり、復興需要や季節商材の動きに期待があるものの、放射性物質による農畜産物の風評被害及び汚染の影響に加え、円高やガソリン価格の高騰等により節約志向が高まり、消費が低迷することが懸念されている。DIは「47.4」(+0.3)と4か月連続で前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を15か月連続で下回った。
- ・企業動向は、放射性物質による風評被害及び汚染の問題や電力不足、円高など先行き不透明な要素があるものの、引き続き復旧・復興関連を中心とした需要の増加による生産・受注の回復の進展が期待されている。DIは「56.3」(+3.0)と4か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で上回った。
- ・雇用動向は、放射性物質の汚染問題や円高等を背景とした企業活動の先行き不透明感から、雇用環境への影響が懸念されるものの、引き続き復旧・復興関連を中心に求人ニーズの増加が見込まれる。DIは「64.3」(+8.3)と4か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を3か月連続で上回った。

以上

#### <添付資料>

- 調査結果の概要

#### <お問い合わせ先>

財団法人 東北活性化研究センター(担当:木村)  
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10  
TEL: 022-222-3394 FAX: 022-222-3395

## 【調査結果の概要】

### 1. 今月の基調判断

景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、

東日本大震災の影響はあるものの、復興関連を中心に持ち直しの動きが続いているとのことである。

### 2. 今月のDI※

#### (1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、59.5（前月比+6.7）と、4か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で上回った。

	22年							23年						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
東北現状	48.6	51.3	42.9	40.7	38.6	42.0	45.1	42.8	48.9	16.8	23.5	35.7	52.8	59.5
家計動向関連	48.3	51.8	44.2	39.2	36.9	40.1	44.2	40.0	48.2	15.3	25.2	36.6	52.3	59.6
企業動向関連	47.4	50.6	38.4	40.4	38.4	45.1	47.6	44.5	50.0	18.2	23.1	36.5	59.9	57.5
雇用関連(参考)	52.4	48.9	43.2	51.2	50.0	47.6	46.6	57.1	51.2	23.8	13.6	28.6	42.9	63.1

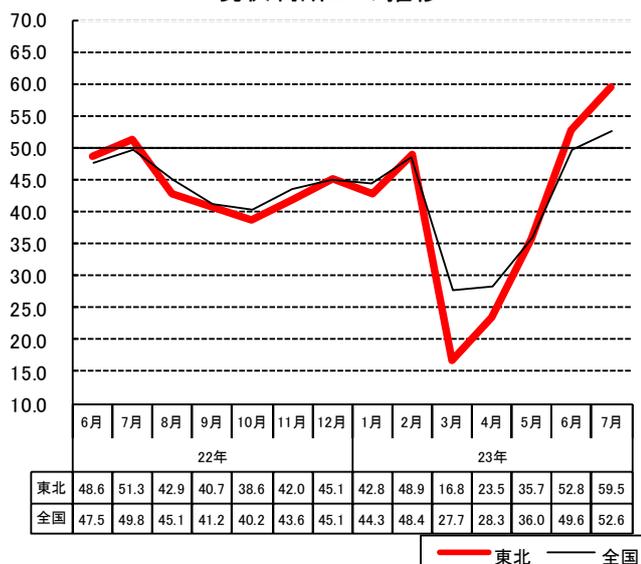
#### (2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、51.0（前月比+1.8）と、4か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を15か月ぶりに上回った。

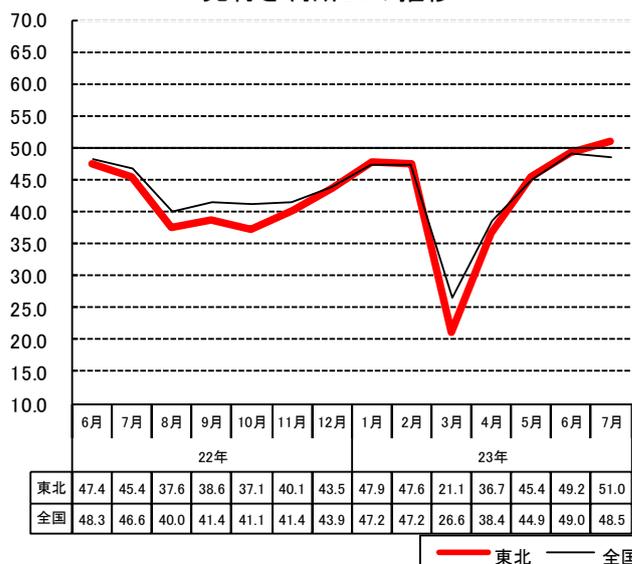
	22年							23年						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
東北先行き	47.4	45.4	37.6	38.6	37.1	40.1	43.5	47.9	47.6	21.1	36.7	45.4	49.2	51.0
家計動向関連	46.5	44.0	37.6	37.6	36.4	40.7	42.6	47.5	47.4	20.7	36.1	43.5	47.1	47.4
企業動向関連	47.4	48.1	39.0	39.1	37.2	37.2	45.1	47.6	46.2	19.6	39.1	47.3	53.3	56.3
雇用関連(参考)	53.6	48.9	35.2	44.0	41.7	41.7	46.6	51.2	51.2	26.2	36.4	54.8	56.0	64.3

※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。

現状判断DIの推移



先行き判断DIの推移



### 3. 調査の概要

調査期間 平成23年7月25日～31日

回答者数 194/210名、回答率92.4%（全国1,859/2,050名、90.7%）

#### 4. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

##### （1）現状判断理由

###### ○「良くなっている」

（百貨店）…東日本大震災以降、しばらく動きの鈍かった宝飾品やブランド品の売上が回復してきており、食料品や家庭用品に加え、高額品にも客の目が向くようになってきている。

（コンビニ）…来客数は前年比 102%ほどであるが、客単価は2けたの伸びを示している。この要因としては、前年に比べて米飯やデザートを中心に品ぞろえが豊富になったこと、暑さが続き季節商材が売れていること、震災義援金が入り経済的にも余裕が出てきたことなどが挙げられる。

（都市型ホテル）…東日本大震災の復興支援ということで宿泊は相変わらず上向いており、かなりの高稼働となっている。それと比例して、レストラン部門の売上も増加している。また、震災の影響で教職員の異動が8月1日付となっているため、今月末は送別会の開催が活発となっている。企業においても同様で、震災で延期となっていた送別会が開催されており、特需となっている。

（旅行代理店）…販売状況が東日本大震災前の水準に戻っている。

（食料品卸売業）…全国からの被災地の物産を購入する支援の動きが好調である。また、県外からの復旧復興関係者により、市内における外食需要やお土産需要が好調となっている。

（人材派遣会社）…東日本大震災の復興特需と思われるが、土木、住宅、配送、倉庫内整理、警備業の求人が増加している。

###### ○「やや良くなっている」

（百貨店）…競合店の休業と復興支援の高速道路無料化の影響で来客数が増加している。また、天候、気温の影響で、夏物商材や暑さ対策商材の動きが良くなっている。震災需要も生活用品を中心に続いている。

（コンビニ）…好天の影響もあり、ペットボトルなどの清涼飲料の動きが良い。弁当や総菜類の販売量も客の来店回数に比例して好調である。

（衣料品専門店）…東日本大震災後の好景気が続いていることに加え、猛暑の影響でクールビズ関連も好調である。なかでも、礼服、スラックス、ワイシャツは絶好調となっている。

（家電量販店）…地上デジタル放送への完全移行に伴い、関連商品の需要が増えている。

（乗用車販売店）…前年はエコカー購入補助金終了前の駆け込み需要があったため、単純な比較はできないが、メーカーの供給正常化に伴い、販売量の下げ幅は縮小傾向にある。来客数や受注水準を見ると、復旧需要はほぼ一巡したようで、一服感が出てきている。

（一般レストラン）…東日本大震災以降、低迷していた客足が戻ってきており、売上も増加している。

（都市型ホテル）…東日本大震災の復興支援のイベントを仙台で開催したいとの問い合わせが全国からあり、宿泊、宴会共に需要は急激に増えている。そのため、今月は件数、売上共に前年実績を大幅に上回り、8月の先行予約状況も前年を上回っている。

（通信会社）…地上デジタル放送対応テレビの駆け込み購入などに連動して、ケーブルテレビへの新規加入者が徐々に増えている。

（観光名所）…3か月前は前年比 10 数%だった来客数が、80%にまで回復してきている。

（食料品製造業）…中元商戦は苦戦が予想されたが、お見舞い返しとして、地元以外にも各地からたくさん注文が入り、前年の歳暮商戦並みの発送件数となっている。

（木材木製品製造業）…住宅部材の需要がやや上向きになってきている。

（建設業）…東日本大震災後、比較的早い段階から対応してきた民間企業や地方自治体発注の震災関連工事に加え、中央官庁からも震災関連工事が出件してきており、これらが受注につながっている。

（広告業協会）…広告業界においては、電力の節電キャンペーンに加え、震災見舞い広告やモバイル端末の新型発売、遊技場関係の自主規制解除、車両メーカーの販売攻勢などにより、かなりの回復が見

られる。

(工場施設管理) …生産量及び生産額が増加しており、特に低単価の製品の生産が増加している。製品の出荷状況を見ても、通常の定期便に加え、毎日チャーター便などでも出荷しており、工場に忙しさがうかがえる。

(人材派遣会社) …採用意欲がおう盛な企業が出てきている。紹介案件も水面下でオファーが活発化しており、来年度への人事戦略が動き出していることがうかがえる。ただし、最終的な派遣需要は東日本大震災前の6割程度となっている。

(人材派遣会社) …東日本大震災後、新卒採用を保留していた企業の採用再開が散見される。

(職業安定所) …被災者向け及び復興関連の求人を始め、ほとんどの業種で求人が増加しており、3か月前より求人活動は活発である。

## ○「変わらない」

(百貨店) …季節商材の動きが前年並みになってきている。特にUV関連や機能商材、婦人衣料などは前年を上回っている。しかし、食料品では放射性物質に汚染された牛の出荷問題で客の牛肉離れが進み、精肉の売上は前年比20%まで落ち込んでいる。加えて、総菜やハム、牛肉関連ギフトへの影響も大きい。高級牛と豚では単価が違うためカバーしきれず、食への不安は更に高まっている。

(スーパー) …客単価は低下していないものの、必要以上の買物はしていないように見受けられる。

(ガソリンスタンド) …東日本大震災以降、客の車の動きが悪く販売不振になっているため、販売単価を引き下げて客をとる動きが出てきており、収益の悪化を招いている。さらに、悪化した収益を取り戻そうと一層の販売強化を図る動きがあり、負のスパイラルを起している。

(建設業) …住宅エコポイントが発行される工事やリフォーム工事が多くなっている。資材価格が高騰する前の駆け込みもあるようである。

(通信業) …いまだ自社設備の復旧も完了していない。また、東日本大震災の影響もあり、取引先からの値下げ要請は更に強まっている。

(職業安定所) …建設業で東日本大震災復旧のための求人が増加している。新規求人数は前年比で大幅に増加しており、3か月連続での増加となっている。

(職業安定所) …新規求人は前年比で小幅な増加にとどまっている。減少が続いていた新規求職も増加へ転じ、有効求人倍率も低迷を続けている。

## ○「やや悪くなっている」

(スーパー) …東日本大震災以降、特に日配、加工食品を中心に動きが良かったものの、最近の販売点数の伸びが鈍くなっている。生鮮食品では、特に東北産の野菜、果物の販売点数が落ち込んでおり、売上は苦戦している。また、放射性物質の牧草への汚染が明らかになって以降、牛肉の売上も急激に低下している。

(乗用車販売店) …東日本大震災の影響による新車の供給不足は解消の傾向にあるが、3、4月に受注した車両の納品がしばらく続いている状況である。相変わらず新規受注から納品まで時間が掛かり、直近の新車受注は伸び悩んでいる。

(通信会社) …消費者は必要以上のものは買わず、最低限の生活を続けており、景気も上向いていない。

(一般機械器具製造業) …自動車部品については、やや持ち直し感が出てきているものの、このところの急激な円高により採算が悪化している。

(職業安定所) …新規学卒者を対象とした求人数が前年比で大きく減少している。

## ○「悪くなっている」

(農林水産業) …例年ならば、お中元用の桃など贈答品の注文が7月末ごろまでに相当数入るが、今年は福島第一原子力発電所事故の風評被害の影響で、まだ1件も入っていない。

## (2) 先行き判断理由

### ○「良くなる」

(医薬品販売店) …夏休みはボランティアの数も東日本大震災直後と同じくらい多くなると予想され、それらの人が繁華街に出て来ることを見込んでいる。また、当店の周辺でも被災者が多く働いているが、それらの人からは、震災義援金が手元に届けばもっと買物をしたいという声が多く聞かれる。

(飲食料品卸売業) …沿岸被災地の飲食店も徐々に再開していくため需要が見込まれる。

(人材派遣会社) …紹介、派遣共に受注が上向いているが、震災雇用を除いてもプラスになると思われ、一時的な動きではないと見ている。年末までは、需要増加が緩やかに続くと予想している。

### ○「やや良くなる」

(コンビニ) …今年は節電という新たな要素が加わったことで、朝に飲料を購入しに来店する客が増加している。現在、来客数、客単価、買上点数、売上共に前年を上回る状況となっており、この先も暑い夏が続き、現在の状況が続くことを期待しつつ、景気はやや良くなるのではないかと見ている。

(衣料品専門店) …夏物セールで欲しい商品が買えなかった客も、秋物の入荷を心待ちにしている様子がかがえるため、秋物の売上も期待できる。

(観光型ホテル) …競合地区ではいまだ一般客を受け入れていないところもあるため、この先の予約状況は料金に関係なく前年比 15~20%増となっている。

(観光型旅館) …復興支援として東北へ旅行したり特産品を購入したりという流れもあり、現状よりはやや良くなると見ている。

(観光名所) …来客数が戻ってきている。お土産も購入する品目が大分増えてきているので、少しずつ回復していくと見ている。

(住宅販売会社) …民間、公共共にかなりの仕事量があり、とても忙しく、不動産もかなり動き始めているので良くなる。

(リフォーム業) …東日本大震災以降、住宅改修の必要性に迫られた人が来るようになっており、このような状況はしばらく続く。

(広告代理店) …東北新幹線は 10 月までには完全復旧する予定であり、観光広報関係での需要が見込まれる。東日本大震災の復興が本格化し、官公庁や自治体からの広報物は増えるの見込んでいる。

(工場施設管理) …半導体関連でも生産回復の動きがみられ、自動車の生産回復やエコ意識による家電製品の買換え需要などから、景気は徐々に回復すると予想される。

(人材派遣会社) …製造工場の復旧も進んでおり、現状の土木、住宅、配送、倉庫内整理、警備業以外でも、求人ニーズの増加が見込まれる。

(人材派遣会社) …建設業界を中心に営業や施工管理、設計の募集が増えてきており、この先も期待が持てる。

### ○「変わらない」

(医薬品販売店) …客は必要なものしか購入しない状況が続いている。また、当店は比較的年配客が多いため、暑さで外に出てこられない人が多くなると見ている。将来に対する不安感も大きくなっており、今月と同じような悪い状態が続くと予想している。

(百貨店) …震災特需はしばらく続くと予想されるが、震災時にメーカーが生産を控えたこともあり、今後の商品量を確保できるかどうかで業績に大きな影響が出る可能性がある。また、食料品についても放射性物質の影響がどれだけ広がるかで、売上に大きな影響を及ぼす懸念がある。

(スーパー) …客の来店回数が減少しているのか、平日の来客数の減少が目立っている。1 点単価も低迷しており、この傾向は今後も続くことが予想される。また、食の安全という点でも不安要素が多く、気候の関係による食材の価格高騰も気がかりである。客の節約志向がますます高まることも懸念される。

- (コンビニ)…電力不足が製造業に影響を与え、全体的にひずみが出てくることを懸念している。また、円高やガソリン価格の高騰といった要因もあり、消費者の財布のひもは固くなると考えている。
- (家電量販店)…東日本大震災の復興需要が落ち着くため、伸びは止まり、現在の状態で横ばいとなる。
- (乗用車販売店)…中古車は軽自動車を中心に価格が高止まりの状態となっており、新車は納期に3か月は掛かる状況となっている。しばらくはこの状態が続く。
- (住関連専門店)…東日本大震災の復興需要があり、仏具の小物や位牌の注文が少しずつ入っている。今後2、3か月は続く見込みである。
- (一般レストラン)…野菜や牛肉の放射性物質汚染問題などもあり、消費者は食べるものについてナイーブになっている。そういったこともあるため、堅調な回復は見込めず、現状を維持するので精一杯ではないかと見ている。
- (金融業)…夏祭りなど観光客入込の時期を迎えているが、例年に比べて出足は鈍い。東日本大震災以降、積極的に活動しようという消費者のマインドは感じられず、状況は変わらない。
- (金属工業協同組合)…生産活動は東日本大震災前の状況に戻っているが、放射性物質の問題や電力不足、円高、中国の景気抑制等といったことについては、先が全く読めない。
- (職業安定所)…有効求人倍率は一時期の低水準から上向きに転じており、この先も上向き傾向が続くことが予想される。
- (職業安定所)…求人が増加している反面、求職者は新規の申込が落ち着いてきているものの、中高年者を中心に滞留傾向にある。また、2、3か月後には雇用保険の支給終了者も増加してくることを踏まえると、現状と変わらない。

## ○「やや悪くなる」

- (雑貨販売店)…ボーナス商戦や節電商戦も一巡し、数字は伸び悩むのではないかと見ている。政府がしっかりとリーダーシップを見せてくれなければ、消費は再び尻すぼみとなる懸念がある。
- (スーパー)…放射性物質の食品への汚染問題は今後も拡大するとともに、消費者の産地選別が厳しくなると予想される。また、産地間の価格差が広がるとともに、買い控えや安心な産地品、あるいは輸入品への依存度が高まり、価格が高騰することも考えられ、消費マインドの冷え込みが懸念される。
- (家電量販店)…地上デジタル放送関連商品の需要は一服し、低迷が予想される。
- (食品専門店)…食品への放射性物質の汚染は、せっかくの回復基調に水を差し、買い控えなどで再び悪化する懸念がある。
- (出版・印刷・同関連産業)…毎年受注していた仕事が今年は中止となったり、規模が小さくなったりしている。また、東日本大震災後、持ちこたえてきた各企業もだんだん厳しくなっており、倒産が出てくることも予想され、見通しは大変厳しい。
- (一般機械器具製造業)…下期以降、大幅な回復が期待できるが、急速な円高により輸出環境が更に悪化し、長期化の様相を呈してくるようならば、抜本的な対策が必要になってくる。

## ○「悪くなる」

- (コンビニ)…復興需要による来客数の増加は、商圈が大きく変わった店以外ではピークを越えつつある。たばこの販売増も一段落するため、売上は減少傾向になると予想される。また、津波被害の復旧や福島第一原子力発電所事故の収束にめどが立っておらず、東北経済全体の低迷が危惧される。
- (農林水産業)…福島第一原子力発電所事故の風評被害で、お中元用の桃は大きなダメージを受けており、今後の桃の売行きについても相当な影響が出ると予想している。その影響が桃の後のりんごにも続くことが懸念される。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上